PART3　S+V+O+於・于・乎+C／S+V+C+O／多くの要素を含んだ構造

④ S+V+O+**於・于・乎**+C

（＊名[1] 動[4]二 名[2]ヲ 於・于・乎 名[3]ニ一）

（例）加二フ衣於君之上一。（衣装　君主の（体の）上　かけた。）

献不死之薬於荊王。（　　　　　　　　）

⑤ S+V+C+O

（＊名[1] 動[4]二 名[2]ニ 名[3]ヲ一）

（例）子路与人一箪（いったん）ノ食（し）。（　　　　　　　　）

注　一箪食…竹で作った器に盛った飯。

問一　左記は先程の**〈例題〉**である（選択肢①・③・④はカット）。②・⑤のうち、正解はどちらか。

〈例題〉「移㆓榻於戸外㆒而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

② 榻を戸外に移して寝ねたり。

⑤ 榻は戸外にて移して寝ねたり。

★多くの要素を含んだ構造

S＋｛副詞／助動詞／再読文字／前置詞を含む句｝＋V＋O＋於・于・乎＋C＋語気詞

※前置詞を含む句
以（もつテ）二～一ヲ　／　与（と）二～一　／　為ニ二～一　／　自（よ）リ二～一　など

※語気詞＝文末で強意・疑問・反語・詠嘆・断定などの気分を表す言葉

（例）臣以二忠信一得二罪於上一者也（なり）。
注　上……上位の人。

書き下し文
〔　　　　　　　　　　　　〕

訳
（私は忠信でありながら「　　　　　　　　」ものである。）

〈Memo〉

第3講　PART3　確認問題

① 文の語順が「S＋V＋O＋於・于・乎＋C」の形であるとき、読み下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

夫差(ふさ)、敗越(えつ)于夫椒(ふせう)。

ア　夫差、越を夫椒に敗る。
イ　夫差、敗れて越に夫椒す。
ウ　夫差、越にて夫椒を敗る。
エ　夫差、越に於いて夫椒を敗る。

② 次の中で、語順が異なるものを一つ選べ。

ア　君子求二諸(これ)己一。　（君子は、すべての責任を自分自身に求める。）
イ　聞二諸(これ)夫子(ふうし)一。　（このようなことを先生より聞いた。）
ウ　季路問レ事二鬼神一。　（季路は、鬼神へのつかえ方をたずねた。）
エ　覆二杯水於坳堂(あうだう)上一、…　（杯いっぱいの水をでこぼこの床の上にひっくり返すと、…）

③ 傍線部の品詞の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

*沛公（はいこう）a已ニ b破ル二咸陽（かんやう）ヲ一。

注　沛公…人名。

ア　a 名詞　b 前置詞　　イ　a 副詞　b 動詞

ウ　a 動詞　b 形容詞　　エ　a 助動詞　b 形容動詞

④ 文の傍線部に返り点と送り仮名をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

有能一日用其力於仁矣乎、…（一日でもその力を十分仁に用いようとすることがあれば、…）

ア　用二其ノ力ヲ一於スニ仁二、…

イ　用二ヒテ其ノ力ニ於仁一ヲ、…

ウ　用二ヒテ其ノ力ヲ於仁一ニ、…

エ　用二フルコト其ノ力ヲ於仁一ニ、…

⑤　文の語順として最も適当なものを、次の中から選べ。

君子ハ悪ムレ居ルコトヲ二下流ニ一。

ア　S＋V「〜は…する」

イ　S＋V＋O「〜は…を…する」

ウ　S＋V＋C「〜は…に（と・より）…する」

エ　S＋V＋O＋C「〜は…に（と・より）…を…する」

オ　S＋V＋C＋O「〜は…を…に（と・より）…する」

〈Memo〉

第3講　PART3　解答

④（衣装**を**君主の（体の）上**に**かけた。）
（不死の薬を荊王に献上する。）

⑤（子路が人に一箪の食を与える。）

★〔臣忠信を以て罪を上に得る者なり。〕
（私は忠信でありながら**罪を上位の人に得る**〔＝罪を上位の人からうける〕ものである。）

問一　②

第３講　PART３　確認問題　解答

〔解説〕

①　目的語は「～を」、補語は「～に・と・より」を補って読み下す。この文の述語は「敗」、目的語は「越（えつ）」、補語は「夫椒（ふせう）」、「于」は置き字である。

②　現代語訳から、目的語が「鬼神へのつかえ方」となっているウのみ他と異なる語順（S＋V＋O）である。イ・エは主語が省略され述語から始まっているが、S＋V＋O＋Cの語順である。

③　返り点に従って読むと、「沛公（はいこう）」が主語（名詞）、「破」が述語（動詞）、「咸陽（かんやう）」が目的語であることがわかる。「已に」は「に」と送り仮名がついているが、述語の上に置かれていることからも、補語ではなく「すでに」と読む副詞である。

④　現代語訳を参照すると、「仁」が補語、「其力」が目的語であるとわかる。また、全体の述語（動詞）は「有」であり、「用」は動詞としては用いられていないことから、連体形に活用したり、連体形に「～こと・もの」を補って体言として読み下したりしているものを選べばよい。よって、エが正解。

⑤　読み下すと、「～は…に…を…する」という形をとっていることがわかる。しかし、漢文において補語は、述語と強く結びつくものである。この文の場合「下流」は「居下流（下流にいること）」というまとまりで考えるため、補語ではない。よって、イが正解。

〔解答〕

①　ア　②　ウ　③　イ　④　エ　⑤　イ